

2025年（令和七年） 1月24日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話（03）3534-7411（代）
FAX（03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

当週（1月16日～1月22日）の国際石油市場は、20日のトランプ大統領就任を挟んで、エネルギー政策の不透明感、石油増産の観測・期待、あるいは就任直前の対口経済制裁強化、イスラエル・ハマスによる停戦合意による中東の緊張緩和などで、最近のトレンドからは一転、軟化を続けた。

NYのWTI原油先物市場は、16日、反落、80ドル台割れの78.68ドルで始まり、3連休を挟み、4営業日続落、取引の中心となる3月物は、22日には75.44ドルまで低下した。

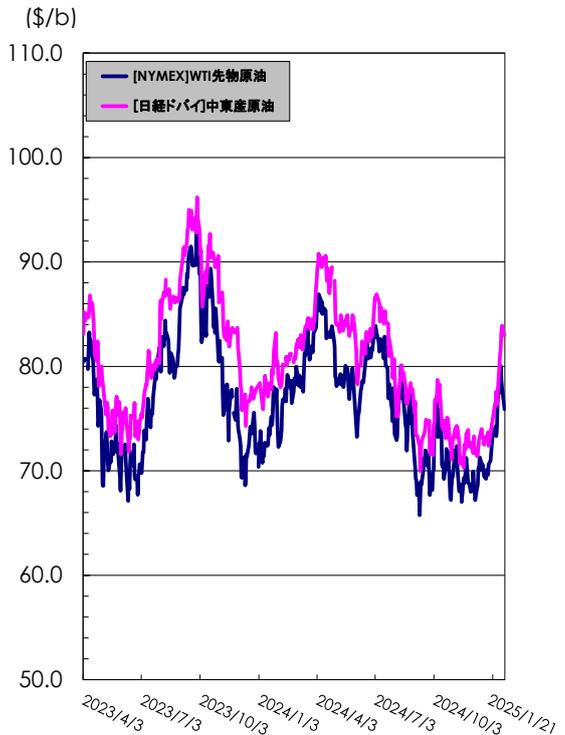
また、中東産バイ原油/東京市場（3月渡し）も、前週（1月9日～15日）は76.30～81.70ドルの範囲で推移したが、当週は、1月16日83.30ドル、17日83.90ドル、20日83.00ドル、21日83.00ドル、22日82.20ドルだった。

対ドル為替レート（TTM）は前週（1月9日～15日）157.57～158.43円の範囲で推移したが、当週は、1月16日156.46円、17日155.25円、20日156.08円、21日156.10円、22日155.55円だった。

財務省が1月23日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、12月下旬の原油輸入平均CIF価格72,978円で前旬比419円高、ドル建て76.12ドルで前旬比0.24ドル安、為替レートは1ドル/152.41円と円安が進んだ。また、12月月間の原油輸入平均CIF価格73,361円で前月比1,793円安、ドル建て76.50ドルで前旬比1.65ドル安、為替レートは1ドル/152.46円。

そのような中で、1月20日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比4.4円高、軽油も同4.4円高、灯油は同73円高（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は185.1円となった。1月23日～29日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は、21.5円（補助金がない場合の次週予想価格206.5円で、185円を超える補助率100%支給部分）と、実額ベースでは前週比5.0円の増額となった。

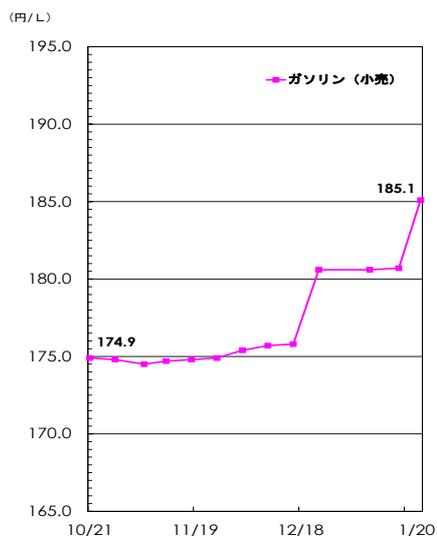
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	1/12 ~ 1/18	2,832 ▼ -77	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	81.8 ▼ -2.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	1/18	10,618 ▲ 749	▼ -
価格	中東産原油(日経バイ) (\$/bbl)	1/20	83.00 ▲ 1.80	▲ 5.2
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/21	75.89 ▼ -2.93	▲ 0.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月下旬	76.12 ▼ -0.24	▼ -14.18
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	72,978 ▲ 419	▼ -10,576
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	152.41 ▼ -1.33	▼ -5.31
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/20	157.08 ▲ 1.49	▼ -7.88



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	在庫	1/18	1,776 ▼ -74	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 1/14 ~ 1/20	83.8 ▲ 0.8	▲ 2.8
価格		(TOCOM/中部) 1/20	86.0 → 0.0	▲ 7.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 1/20	185.1 ▲ 4.4	▲ 9.9

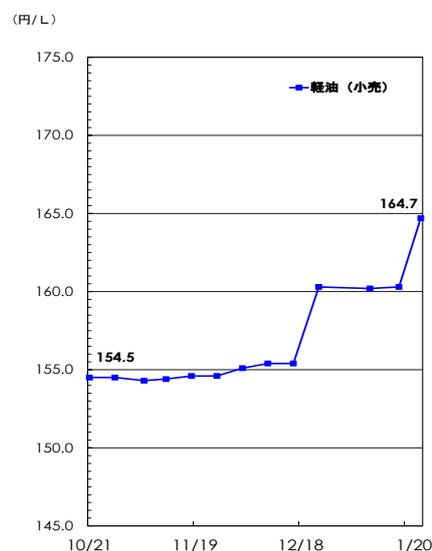
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

軽油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	1/18	1,600 ▼ -23	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 1/14 ~ 1/20	89.1 ▲ 2.1	▲ 5.5
価格		(TOCOM/中部) 1/20	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 1/20	164.7 ▲ 4.4	▲ 9.9

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	在庫	1/18	2,105 ▲ 17	▼ -
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 1/14 ~ 1/20	84.8 ▲ 0.8	▲ 2.3
価格		(TOCOM/中部) 1/20	89.0 → 0.0	▲ 7.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表) 1/20	126.7 ▲ 4.1	▲ 9.8



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週（1月9日～15日）のNYMEX・WTI先物市場は73.92～80.04ドルの範囲で推移した。

当週、1月16日は、前日のイスラエル・ハマスの停戦合意に合わせ、ハマス支持のイエメンの親イラン武力組織フーシ派も、紅海上の船舶への攻撃を停止するとの報道があり、一段と緊張は緩和、反落した。80ドルに乗せた利益確定売り、ポジション調整売りも出た模様。2月物終値は前日比1.36ドル安の78.68ドル。

週末17日は、前日に続き、中東の緊張緩和で、続落した。20日のトランプ大統領就任を前に、関税政策、外交政策の行方が注目された。また、翌日からの3連休を前に、利益確定売りもあった。さらに、国際通貨基金（IMF）が25年の世界見通しで、経済成長率を上方修正し、買われる場面もあった。2月物終値は同0.80ドル安の77.88ドル。

20日は、キング牧師記念日で休場。

連休明け21日は、前日のトランプ大統領就任演説における石油増産の明言による需給緩和拡大懸念から、3営業日続落した。また、フーシの紅海の船舶攻撃停止報道等パレスチナをめぐる緊張緩和も値下がり要因となった。2月物終値

は同1.99ドル安の75.89ドル。

22日は、トランプ大統領の貿易・関税政策の内容が不透明な中、「掘って、掘って、掘りまくれ！」で石油天然ガスの増産観測・期待感が高まり、この日から取引の中心限月となった3月物終値は同0.39ドル安の75.44ドル。

2 海外/米国石油市場

1月17日時点の米国石油在庫週報は、20日祝日の影響で、一日遅れの23日の予定。

米国エネルギー情報局（EIA）によると、1月20日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比6.6セント高の1ガロン3.109ドル（128.9円/ℓ）と2週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比11.3セント高の1ガロン3.715ドル（154.0円/ℓ）と4週連続の値上がり。

ベーカーヒューズ社によると、1月17日時点で、米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比2基減の478基となった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、2025年1月12日～1月18日に休止したトッパ能力は17.3万バレル/日で、前週に対して横ばい（全処理能力は311.0万バレル/日）。

原油処理量は283.2万klと、前週に比べ7.7万kl減少。前年に対しては9.3万klの減少。トッパ稼働率は81.8%と前週に対して2.2ポイントの減少、前年に対しては0.4ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

1月18日時点の在庫は、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは177.6万kl、前週差7.4万kl減。前年に対しては11.3万kl少ない。

灯油は210.5万kl、前週差1.7万kl増。前年に対しては4.6万kl少ない。

軽油は160.0万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては6.4万kl少ない。

A重油は75.8万kl、前週差0.7万kl減。前年に対しては3.6万kl多い。

C重油は169.5万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては23.0万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (1/18)	前週 (1/11)	前週比
ガソリン	1,776	1,850	▼ -74 (-4%)
ジェット燃料	679	735	▼ -56 (-8%)
灯油	2,105	2,088	▲ 17 (1%)
軽油	1,600	1,623	▼ -23 (-1%)
A重油	758	765	▼ -7 (-1%)
C重油	1,695	1,718	▼ -23 (-1%)
合計	8,613	8,779	▼ -166 (-1.9%)

5 国内/元売会社製品卸価格

1月14日～20日のドル建て中東原油価格は前週比値上がり、為替レートはわずかに円高が進んだが、元売会社の卸建値は値上がりしたものと見られる。ただ、補助金は5.0円増額されることから、1/23の実質卸価格は値下がりとなる模様。

6 国内/製品小売価格

1月20日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比4.4円高の185.1円、軽油も同4.4円高の164.7円、灯油は18%ベースで同73円高の2,280円(1%ベースでは4.1円高の126.7円)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油は7週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが47都道府県、横ばい・値下がりはない。全国最安値は岩手県の177.8円、その次は愛知県の178.2円であった。他方、最高値は高知県の193.6円。最も値上がりしたのは宮城県(同6.3円高)、最も上げ幅が小さかったのは沖縄県(同0.8円高)だった。

次回調査時(1/27)のガソリンの小売価格は、小幅な値動きが予想される。

(単位：円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (1/20)	前週 (1/14)	前週比	直近高値
レギュラー	185.1	180.7	▲ 4.4	23/9/4 186.5
灯油	126.7	122.6	▲ 4.1	08/8/11 132.1
軽油	164.7	160.3	▲ 4.4	08/8/4 167.4

※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回 (2024第41号) の公表は、1/31 (金) 14:00 です。

2024年12月より石連週報の公表内容の見直しがあり、「3.国内/製品出荷量」の項目・内容を変更しました。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報 (以下、併せて「ドキュメント」) に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター (以下、当センター) 又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟 (石連) 「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所 (New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場 (取引の中心限月) の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM

(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値) を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社 (一次卸) と系列特約店など (二次卸) との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用 (資工庁公表)。原則として、毎週 (月) 時点の価格を調査し (水) 14:00に公表 (資源エネルギー庁HPに掲載)。